

平成 27 年度「シティ・フューチャー・ギャラリー（仮称）」構想検討準備会における主な意見

1. ギャラリーの目的・意義について

- インバウンド客の増加、海外インフラ展開の目的でこのような施設を設けることは新興国の来日者を案内するために必要であり、意義のあることだと考える。
- 海外から来られる方にジャパンバリューを発信して、アウトバウンドと、さらなる訪日インバウンドの拡大につなげていく。
- 大都市ならではの勇気と夢と希望を持ち、五感に訴える施設になると嬉しい。
- 夢のある社会を提示し、東京都民の若い方のシティプライドを醸成するような形にしていきたい。
- 都市のプロモーション戦略構築の中で、施設の設置場所、展示内容、担い手等のトータルな戦略の構築が必要である。

2. 展示内容について

- 日本の都市開発がどのような経緯を経て、どのように考え方が変わってきたかについて説明ができることに資する施設になるとよい。
- 日本全体の魅力を東京中心に発信して、アウトバウンドと訪日インバウンド両方につなげていくことが重要。
- 汎用的な技術も大事だが、日本的なものも提示するとよい。例えば沿線開発、災害に強い開発、駅や街、地下街等も見せるべき。
- 新型モビリティ、水素社会、スマートシティ、ロボットアシストなども展示に含めて、夢のある社会を提示するべき。
- 東京の歴史、江戸から現代、未来迄の流れをしっかりと表現したい。
- 科学技術面でのアピールも必要だが、日本が世界に誇れる日本の文化・流儀を訴求したい。

3. 展示手法について

- ターゲットによって見せ方に工夫が必要。模型や日本のテクノロジーならではのデジタル技術をもった、ネットワークで場所を超えて見せられる仕組みが重要である。
- 開所後もコンテンツを更新して進化していけるような運営システム、体制が重要である。
- 諸外国の事例の調査を基に、手法やコストを検討すべきである。

4. 他都市・地域との連携について

- オリンピックで多くの訪日外国人の滞在が予想される。そのような人を東京に留めるだけでなく、東京の外に誘導したい。点ではなく面でとらえる必要がある。

- 大学ネットワークなども視野に入れた運営ができるとよい。
- 若い人向けをキーワードに産官学を含めて検討してほしい。

5. 展示機能以外に必要となる機能について

- 新興国各国の企業は日本の良いものを取り入れたいというが、その具体的なイメージがない。どのような経緯を経て、どのように考え方が変わってきたかについて説明ができることに資するセールスツールの施設になるとよい。
- まちづくりの取組を外国企業に案内するチャンスは多いので、施設で建築に関わる先進技術を紹介し、うまく進んでいる姿を見せたい。
- 都市が大学の専門以外に考える場がない中、皆が都市について考える機会を増やすことが重要である。
- 情報を発信して国内外の人や人脈を育てたり、つないだりしていける機能が必要である。
- 事業者が活用できるプレゼンルームが必要である。

6. スケジュールについて

- 単独の建物かビルの一角か、分散配置、集約配置、既存改修、新築など施設の条件によってはスケジュールが大きく変更となる可能性あり、これらを明確にした上でスケジュールを組むべき。
- 大枠のところは前向きに取り組めるので、具体的な場所、模型なども議論しながら進めてはどうか。